

総合的リスク管理

JA事業改革④

総合的リスクマネジメントによる経営の改善と改革は、JAの経営から生み出される将来キャッシュフロー（現金収支）で適切な利益水準を達成できるよう、JA経営全体でのキャッシュフローを増やすことに他ならない。

生み出されるキャッシュフローを増やせば、当然のことながら利益水準は改善する。総合的リスクマネジメントを活用した経営の改善や改革は、当たり前のことをリスクマネジメントの実践として行っているにすぎない。

キャッシュフローを増やす

こととは何か。信用事業でいえば調達を低く、運用を高めにするれば信用事業から生み出されるキャッシュフローを増やすことができる。経済事業

リンシバル（原則）を、リスクマネジメントを通じて実現しているにすぎない。

では、こうした単純なプリシバル、収益水準の改善を

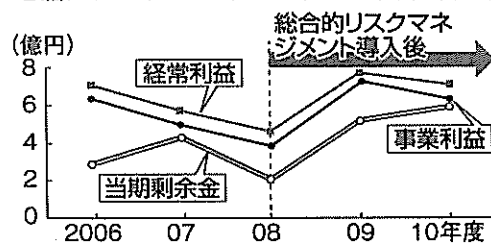
役員による経営改革

計画と実行に論拠を

でいえば、取扱高が伸びなければコストダウンによって一定に収益を改善し、赤字事業でも赤字幅を縮小して、キャッシュアウトを減少させれば、JA全体のキャッシュフローの増加に寄与する。

ごく当然のことを述べており、それは分かっていると言われるかもしれないが、JA全体のキャッシュフローを増やせば経営改善や利益水準を向上できるといった単純なプ

S農協におけるリスクマネジメントによる経営改善効果



※S農協は総合的リスクマネジメントを08年度に導入しており、翌年度以降、信用事業と経済事業の改善により利益水準の大幅増加を達成している

実現するマネジメントとは何か。経営改善や改革に必要なマネジメントとは、まさに役員による経営判断が大きな経営収支の変化を生み出す。役員も経営判断を迫られれば、経営判断に至る明確な根拠や確信が必要になってくる。その判断材料を示す鍵は、リスクマネジメントによる将来キャッシュフロー、リスク量の数値化とシミュレーションである。

リスクマネジメントによる経営改善と改革はPDCAサイクルのうち、P(計画)とD(実行)が最も重要であり、P(計画)とD(実行)に明確な論拠を与えることといえる。

(協同経済経営研究所専務・加島徹)

(次回は6日付)